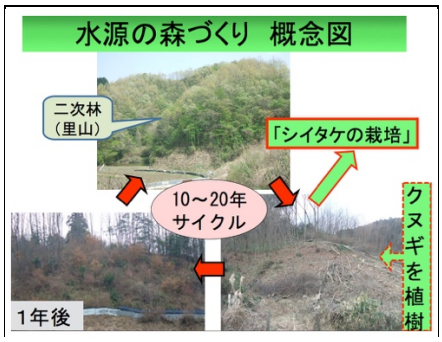
水源の森づくり

「水源の森」づくりは、2000 年に奈良県を襲った大型台風による風倒木調査から始まった（下写真)。当初は「木の子村」グループの人たちやグリーンボランティアの人たちが中心になって作業をおこなっていたが、2003 年からは環境市民ネットワーク天理も加わり、その年の 3 月 23 日からは天理市の布留川上流・仁興川源流域で植樹作業を始めることになった。

2000 年の台風による布留川源流域での風倒木処理作業（左、中)。そして 2003 年に源流域に造成した「水源の森」看板（右)。



「水源の森づくり」概念図（左)、植樹後７カ月経過した幼木(中、2003 年 3 月 23 日)、そして生長した幼木（右、2005 年 7 年 17 日)。

「水源の森」は、ゆっくりだが、しかし着実に「森」としての機能を果たし始めている（下写真)。また、下草刈りによって幼木は確実に生長し（下写真)、地球温暖化を促す二酸化炭素の吸収を徐々に増加させる“温暖化抑止林”としての役割ももち始めている。私たち「ネットワーク天理」は、さらにこの「森」の“森林力”が高まるよう、今後も植樹と育樹に努めていきたいと考えている。

「水源の森」周辺での下草刈りのようす（左)、「自然学習」(中、2008 年 11 月 29 日)、植樹８年後のようす（右、2010 年 11 月 28 日)。

樹木は 50 年、100 年の単位で生長する。そのため、育樹も５年、10 年の単位で経過を見続ける必要がある（上写真)。ただ幼木の段階はシカやウサギ、ネズミ等からの食害を受けやすいことから、特に注意を要する。「水源の森」づくりは、天理市域に良質な飲料水を持続的に供給できることを第一の目的にしていることから、「水源保安林」としての機能を高めることは当然だが、地球温暖化を促す温室効果ガスの一つ、二酸化炭素を吸収する“温暖化抑止林”としての機能を高めることも重要と考えている。そのために、断続的な植樹・育樹活動も続けている。

たとえば、2011 年には、5 月 15 日と 6 月 4 日に延べ 20 名が、幼木が生長する「水源の森」植林地で下草刈りをおこない、6 月 12 日には 5 名がその周辺域でクヌギ 200 本を新たに植えた。また 9 月 18 日には 9 名が、当該「水源の森」から少し離れた布留川上流・仁興川源流域で、「水源・バイオマスの森」を造成した（下写真）。

「水源の森」で植樹したときのクヌギ（左）。また「水源・バイオマスの森」を新た造成し (中)、そのさいに設置した看板(右)。